

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑531番地1
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 8 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれ季節感を感じながら、緩やかに暮らして頂いています。 ・一人ひとりが、自由に楽しく、入居者、職員等気持の良い挨拶で朝が始まり、みんな仲良く笑顔で生活しています。 ・リハビリ体操、口腔体操、頭の体操等で身体能力維持に励んでいます。 ・利用者様の本意がどこにあるのか、日々の生活の中で、会話の中で感じられるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して9年目になる事業所は日本家屋の平屋で落ち着いた雰囲気がある。幹線道路から少し離れた場所にあり、山や川に囲まれて静かで落ち着ける環境の中にある。管理者は事業所の立ち上げから関わり、今年は「チャレンジ」を目標に掲げ、利用者一人ひとりの思いに焦点を当て個人の思いを叶えることができるよう取り組んでいる。さつま芋を植えて敬老会を兼ねての収穫祭を予定し、利用者や家族、地域住民と一緒に楽しんでもらおうと力を入れている。職員は、利用者が入浴やレクリエーション、離床など、ゆったりとんびり本人のペースに合わせて自由に安心して暮らせるよう、理念に沿った支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) ほたる棟

記入者(管理者)

氏名 岡田 絹子

評価完了日

平成28年7月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホーム内の理念を作りホームに掲示している。理念の共有はできている。地域密着型サービスの意義の理念を組み入れている。少しずつではあるが地域の方と交流が図られている。	
			(外部評価) 開設時に母体法人が作成した規定に合わせて事業所独自の理念を作成している。理念は職員全員で話し合い、これまでに2回の見直しを行い、現在は「お一人ひとりが自由に安心して暮らせるようにします。地域の方の力を借り共にこの地域で仲良く生活できるようにします。」という理念を掲げ、職員会で確認し合いながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 運営推進会議の実施、お祭りなどのみこし、おいのこさん等の受け入れ、近所への買い物、散歩等に行くようにしている。年一回の家族会に地域の方の参加もあり交流できている。 夏祭りの踊りの参加、職員勇志のスポーツ参加	
			(外部評価) 自治会に加入してお花見や運動会、お祭りに利用者も一緒に参加して楽しんでいる。また神社との付き合いや他施設の夏祭り、文化祭に参加して交流している。事業所で開催する豆まき、納涼祭、クリスマス会は地域住民にも呼びかけ参加を得ている。畑にさつまいもを植えて、秋には利用者や地域住民と一緒に収穫祭を予定しており、みんなが楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 不十分ではあるが運営推進会議で認知症の人の理解や支援の方法を話し合いしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 行事等サービス取り組み状況を伝え、消防署避難訓練等の参加 を踏まえた話し合いをしている。	保育園、警察、家族など多方面からの参加を得るため に、参加しやすい時間帯や関心が持てる議題を検討 し、積極的な意見交換を行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしていけるような取組みに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は自治会長、広報委員、班長、民生委員、市長寿 介護課職員、家族の参加を得て開催している。利用者の体調不 良のため入退院や退去者が続き不定期の開催となり、参加者の 時間調整も難しく積極的な意見交換とまでには至っていない。 本年は比較的安定しており、利用状況を報告し意見交換を行っ ている。今後は保育園や警察にも呼びかけ、参加を募りたいと 考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、地域ケア会議、介護支援専門員連絡会に参加し 情報交換を行っている。	
			(外部評価) 市長寿介護課は毎回運営推進会議に参加し、利用状況の確認や 事業所の経過報告を聞いてもらうなどの関係である。処遇改善 手当についての相談や社会資源マップ作りへの参加、研修会の 案内をもらったり市ケアマネ連絡会に参加して不安や悩みを話 したりしている。また、地域包括支援センター職員とはケアプ ラン内容の相談や空き状況を報告するなど連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修の参加、ケアカンファレンス、業務カンファレンス時に話 し合いを行い身体拘束をしないケアを職員に周知し実施してい る。 日常的にも会話をし拘束のないケアに取り組む	
			(外部評価) 職員が講師となり定期的に身体拘束をしないケアについての勉強 会を行い、職員全員が理解を深めている。ベッドからずり落ち てしまう利用者には職員間で話し合い床に布団を敷いて対応 し、外出願望のある利用者には、声かけしたり職員が車で一緒 に外出して気分転換を図るなど、身体拘束をしないケアに取り 組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加、研修の結果をホームで話し合い虐待防止に努めている。 職員同士がストレスを溜めない様、コミュニケーションを図っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会を持っており、関係者と必要性を話し合い、また、それらを活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者家族の不安がないよう十分に説明をするようにしている。また、疑問等を持たれた場合は、随時対応し理解して頂けるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機会はあまり持っていない。 利用者の意見は日々の生活の中で会話から気持ちを引き出し、その方に良い環境が作れるよう努力している。 家族の意見は、家族の来訪時に聞いている。また現状報告をしている。	
			(外部評価) 事業所主催の行事は行っているが、家族会は開催していない。 利用者の重度化に伴い意見を聞くことはほとんどできない状況にある。家族からは面会時に声をかけて具体的な内容を示して返答をもらうようにしているが、個別ケアの相談が中心で事業所に対する意見は少ない状況である。	事業所主催の行事を利用して意見を出しやすい工夫を行ったり、日頃からどう思っているかなどアンケートで本音を聞く等、利用者や家族が気兼ねなく意見や要望を出せる機会を設け、事業所の運営に活かすことができるような取組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の勤務時間を含め職員の意見に耳を傾け反映させている。 一か月に一回は管理者会議の開催、カンファレンスを行っている。 不定期に面接を行っている。 (外部評価) 毎月のケアカンファレンスで意見等を聞いているが、急ぎの時は話し合いを行う都度意見を聞いている。管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め職員から出された意見をできる限り取り入れるよう配慮しており、職員のモチベーションアップに繋がっている。また、内部研修で職員2人1組のペアになり資料を作成したり、講師を務め職員と意見交換をするなどの取組みは、職員間の連携も強固になり業務にも生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力等勤務状況を把握するようにしている。しかし、職員環境の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内で業務カンファレンス時職員が担当して勉強会を行っている。外部評価を受けた職員からその内容の報告の発表を行っている。働きながらのトレーニングはできていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者と同じ研修に参加したり介護をもって交流に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の過去現在希望不安等を聞き、理解しているようにしている。 内的感情にどこまで迫れるか傾聴している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方の要望、不安等は電話、訪問時にお話を聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期の段階で本人家族と話し合い、どのような支援が良いか考え対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人に任せきりにならないよう出来ることはして頂く様関係を築けるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には、面会時電話等で近況報告をし本人を支えていくようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 御本人に「なじみのところ」ということに対して理解が難しくなっている為できていない	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族より馴染みの人や場所を聞き取っているほか、近所の人や同級生の面会時はゆっくりできるように配慮し、利用者との日頃の会話の中で聞き取り馴染みの関係を把握している。また、駅前に自宅がある利用者の汽車に乗って家に帰りたいという希望を叶えるなど、要望に沿う支援ができています。美容師をしている娘の店で散髪が続けられたり、訪問美容師と馴染みになり関係が継続するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係は把握している。関わりの不十分な方には職員が入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的な関わりを必要とする利用者家族の方は、現在おられない	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向は会話の中にあり暮らしの希望、意向の把握に努めている。 本人になったつもりで検討している	
			(外部評価) 日々の動作や会話の中から聞き取るなど、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分の思いを伝えるににくい利用者は表情を見て本人の気持ちになって考えるようにしているほか、家族から聞き取り本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の事前調査、アセスメントで情報を得ている。また、家族からの情報等で経過の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方、身体的状況は把握できている。心の有する力は把握に至っていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回全員でケアカンファレンスを行い、本人・家族の希望等を話し合い、利用者本意の計画になるよう努力している。また、利用者が日々の生活の中で変化があった時は、その都度話し合っ て計画に反映させている。	
			(外部評価) 担当職員は、利用者の思いや意向を把握し介護計画に取り入れている。利用者のニーズをまとめてケアカンファレンスで話し合い作成している。3か月毎にモニタリングを行い、家族には電話で意向を確認するなどし計画の見直しを行っている。介護計画は家族へ郵送したり面会時を利用し家族に説明し確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活を書いた個別介護記録をし、月一回ケアカンファレンスをする。三ヶ月に一回ケアプランの見直しをしている。情報を共有し現状にあったプランを作成し実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の同意の元に受診等の支援を行っている。その時のニーズに対応し変化に応じたサービスが出来ている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源は把握している。しかし実際に地域資源と共同ということがかなり少ない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医が月二回以上のや往診、緊急時の対応も出来るよう になっている。本人家族の了解の元専門医の受診も支援してい る。	
			(外部評価) かかりつけ医については、入居時に利用者や家族と話し合っ ており母体病院をかかりつけ医としている利用者が多い。かかり つけ医の往診は定期的で健康管理がきちんとできており、体調 不良時はその都度診てもらえることができる。週1回の看護師の 訪問や歯科医の往診もあるなど、適切な医療を受けることがで き安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週一回看護師の訪問があり相談し適切な対応が出来ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 緊急時だけでなく、日頃から連携を取り情報交換、相談をして いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化の看取りに対しては、家族の意思を尊重し家族職員医師 が話し合いをしている。特に看取りに関しては、家族の全面的 な協力が必要であると思われ話し合いをしている。 家族の意向の共有に努めている。	
			(外部評価) ターミナルケアを実践しており、入居時に重度化及び看取りに 関する指針にそって、事業所でできることできないことを利用 者や家族に説明し確認している。また、身体状況に応じて医 師、看護師等と話し合い、状況に応じて夜間の職員配置を増や すなどの対応をしている。職員は年間定期研修のテーマに看取 り等を取り上げ勉強会を実施するなど、穏やかに最期を迎えら れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習を受け急変時の対応に備えている。年に一回の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応は話し合っている。火災時大規模災害の訓練を実施している。地域の方の参加はない。近所の方への応援は要請している、食糧等の備蓄も取り組んでいる。 防災委員会の設置。	
			(外部評価) 年に2回、火災を想定して消防署の立会いの下、避難訓練を実施するほか、年に1回の救命救急講習を実施している。避難後の人数確認、利用者への声かけ、避難経路や避難方法などアドバイスをもらっている。事業所が耐震構造になっているため、地域の避難場所としての受入れが可能であることを運営推進会議で説明している。また、事業所内のタンスを固定したり、水や粥、かんぱんなどの備蓄品を配備するなど災害時に備えている。	職員全員で消防署のアドバイス内容を確認し見直しを行うとともに、緊急連絡網の実践で情報伝達状況を確認し職員の防災意識を高め緊急時に備えてほしい。地域住民や家族に避難訓練への参加を呼びかけ、災害時に協力が得られるような体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけや対応に注意している。大声で話さない。本人が失敗された時さりげなく対応する等心がけている。	
			(外部評価) 排泄介助やおむつ交換時は言葉遣いに気を付け、利用者が羞恥心を感じないように配慮した対応を心がけており、排泄に関しての報告は職員同士にしか解らない表現にしている。大きな声で名前を呼ばないよう留意し、方言を大切にしながらも尊敬の念を忘れないような声かけに配慮し、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に着替えの服を選んで頂いたり、飲み物も決めて頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴等職員の立場を優先する事がある。しかし大半は何時に何をすることはせず、その方の今を大事に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 散髪は、2～3ヶ月に一回美容師来所に対応している。 服など選ぶことができない方もいらっしゃるなのでその時は、職員が考えてその方にあつたおしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事を自分でできる方は半数位である。ミキサー食、おかゆの提供をしている。職員の介助で摂取されている方が多く楽しまれているとは言えない。	
			(外部評価) 献立は事業所の担当者が持ち回りで立て、それを基に利用者の好みや畑で採れた野菜をアレンジするなど事業所独自のメニューにしており、食材は業者に毎日配達を依頼している。また、季節に応じて寿司や刺身、うなぎなどの特別メニューが提供され、誕生日はケーキを作るなど利用者の楽しみになっている。食事形態はミキサー食や刻み食など利用者の状況により対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量・食事量のチェックをしている。それを見て不足の時は意識的に声かけをし水分摂取を促している。 水分はいつでも飲むことができるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔ケアは出来ている。歯磨きが出来ない方は口腔ケア用ガーゼで拭いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間で行かれている方は、時間を見て声かけ誘導している。意思表示ができない方は、その方の様子を観て誘導している。	
			(外部評価) トイレは跳ね上げ式手すりを設置し、利用者の身体状況に合わせて安全に使用することができる。歯磨きや手洗い時に利用者の様子を見て声をかけるなど工夫しトイレ誘導している。また、失禁の多い利用者に対してトイレ介助を増やすことで失禁回数やパット使用量が減っており、現在も維持することができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取チェック表等を利用し定期的排泄ができるようにしている。時には薬(下剤)で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の希望に応じた入浴ができるようにしている。清潔を保つ為日は決めず、入浴して頂いている。	
			(外部評価) 浴室はユニットバスでシャワーキャリーやシャワーチェアを設置している。入浴は週2回を基本としているが、体調不良などの場合もあるため常に臨機応変に対応できるようにしている。個浴では対応できない重度の利用者は、リクライニング車いすにナイロンを敷きシャワー浴を行うなど工夫をするほか、手浴や足浴、清拭を行い入浴の感覚を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく昼からは休息して頂けるような時間を作っている。安心して気持ちよく休まれるよう見守り見回りをし空調等を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬事情報をファイルして職員が用法・副作用を理解できるようにしている。その後の状態も記録にし、様子観察できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の役割、楽しみごとの支援をしている。例えば、紙ちぎりをしている。また役割として「洗濯物を畳む」ということをして頂き、やりがいのある日々を送って頂けるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援は出来ていない。デッキやホームの周り等に出ている。普段行けないところには家族の協力が出掛けられている。	
			(外部評価) 天候の良い時は近くの神社まで散歩したり、ベランダで歌を歌ったり体操をするなど外気浴を楽しんでいる。地域の行事に参加したり近くのスーパーや道の駅に買い物に出かけている。また外食したり、菖蒲などを見物するために外出し気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在はその対象者がおられない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでもかけたい時にかけられるようにしている。手紙はやり取りまでにはいかず、受け取った手紙をお渡ししているので返事は書く事ができていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、季節の花等を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。光は遮光カーテンで調整している。室温は空調にて行っている。 壁、紙アートで室内を変化させている。	
			(外部評価) リビングは広くて明るくコーナーにある畳スペースは家庭的な雰囲気になっている。職員は季節感がありくつろげる空間となるよう壁一面に飾りつけなどを行っている。昭和の音楽を流し、職員手作りの歌本を読む人など、その時代に戻ってゆったりとした雰囲気の中で穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の座るところを決めている。安心して過ごせる場所を決めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真等を飾ったり使い慣れた毛布、タオルケット等を使用して頂き、本人が居心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台やエアコンを常備している。部屋からすぐにベランダに出ることができ、庭には野菜などを植えており野菜の世話は気分転換になっている。使い慣れたテーブルや椅子、毛布やタオルケットなどを持込んだり、仏壇、家族写真や孫の絵などを飾りつけて居心地よく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドで寝る習慣がついていない方は、安全の為に床にマットを敷いて寝られている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891000048
法人名	株式会社 新風会
事業所名	グループホーム 秦皇
所在地	愛媛県伊予市中山町丑531番地1
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 8 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然に囲まれ季節感を感じながら、緩やかに暮らして頂いています。 ・一人ひとりが、自由に楽しく、入居者、職員等気持ちの良い挨拶で朝が始まり、みんな仲良く笑顔で生活しています。 ・リハビリ体操、口腔体操、頭の体操等で身体能力維持に励んでいます。 ・利用者様の本意がどこにあるのか、日々の生活の中で、会話の中で感じられるよう努力しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して9年目になる事業所は日本家屋の平屋で落ち着いた雰囲気がある。幹線道路から少し入った場所にあり、山や川に囲まれて静かで落ち着ける環境の中にある。管理者は事業所の立ち上げから関わり、今年は「チャレンジ」を目標に掲げ、利用者一人ひとりの思いに焦点を当て個人の思いを叶えることができるよう取り組んでいる。さつま芋を植えて敬老会を兼ねての収穫祭を予定し、利用者や家族、地域住民と一緒に楽しんでもらおうと力を入れている。職員は、利用者が入浴やレクリエーション、離床など、ゆったりのおんびり本人のペースに合わせて自由に安心して暮らせるよう、理念に沿った支援に努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム秦皇

(ユニット名) くり棟

記入者(管理者)

氏名 岡田 絹子・高橋 龍平

評価完了日

平成 28 年 7 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内ホーム内の理念があり掲示している。全職員、理念の共有は出来ていて日々の実践に繋げている。</p> <p>(外部評価) 開設時に母体法人が作成した規定に合わせて事業所独自の理念を作成している。理念は職員全員で話し合い、これまでに2回の見直しを行い、現在は「お一人ひとりが自由に安心して暮らせるようにします。地域の方の力を借り共にこの地域で仲良く生活できるようにします。」という理念を掲げ、職員会で確認し合いながら実践に繋げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小学生・中学生の訪問を受け入れ、運営推進会議の実施、祭りのみこし、おいのこさんの受け入れをしている。近所への買い物・散歩等にも行っている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入してお花見や運動会、お祭りに利用者も一緒に参加して楽しんでいる。また神社との付き合いや他施設の夏祭り、文化祭に参加して交流している。事業所で開催する豆まき、納涼祭、クリスマス会は地域住民にも呼びかけ参加を得ている。畑にさつまいもを植えて、秋には利用者や地域住民と一緒に収穫祭を予定しており、みんなが楽しみにしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に一回の運営推進会議に地域の方に参加して頂き認知症についての話し合いをしたり、学生の総合学習の受け入れを行う事で地域の人々の理解や支援を少しずつ行っていきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回会議を開催し意見交換を行っている。参加者の意見を参考にサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。また、運営推進会議は話し合いだけではなく行事にも参加して頂き様々な意見も頂いてサービス向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は自治会長、広報委員、班長、民生委員、市長寿介護課職員、家族の参加を得て開催している。利用者の体調不良のため入退院や退去者が続き不規則の開催となり、参加者の時間調整も難しく積極的な意見交換とまでには至っていない。本年は比較的安定しており、利用状況を報告し意見交換を行っている。今後は保育園や警察にも呼びかけ、参加を募りたいと考えている。	保育園、警察、家族など多方面からの参加を得るために、参加しやすい時間帯や関心が持てる議題を検討し、積極的な意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしていけるような取組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、ケア会議等に参加したり電話等で情報交換を行っている。	
			(外部評価) 市長寿介護課は毎回運営推進会議に参加し、利用状況の確認や事業所の経過報告を聞いてもらうなどの関係である。処遇改善手当についての相談や社会資源マップ作りへの参加、研修会の案内をもらったり市ケアマネ連絡会に参加して不安や悩みを話したりしている。また、地域包括支援センター職員とはケアプラン内容の相談や空き状況を報告するなど連携を図っている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修の参加又はケアカンファレンス、業務カンファレンス時に話し合い、日々の業務の中で職員同士が声かけ、見守りを行い、身体拘束をしないケアを職員全員が心がけている。	
			(外部評価) 職員が講師となり定期的に身体拘束をしないケアについての勉強会を行い、職員全員が理解を深めている。ベッドからずり落ちてしまう利用者には職員間で話し合い床に布団を敷いて対応し、外出願望のある利用者には、声かけしたり職員が車で一緒に外出して気分転換を図るなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修の参加、ホーム内での話し合いの場を設け虐待防止に努めている。事業所内で学ぶ機会を持っており重要性を関係者と話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会を持っており、必要性を関係者と話し合っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族が不安がないよう十分に説明をするようにしている。また契約の改定時には利用者、家族の納得が得られるよう十分に説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 外部の方へ意見を表せる機会はあまり持っていない。しかし、利用者の意見は日々の生活の中での会話から意見・要望を確認しそれを運営に反映している。 (外部評価) 事業所主催の行事は行っているが、家族会は開催していない。利用者の重度化に伴い意見を聞くことはほとんどできない状況にある。家族からは面会時に声をかけて具体的な内容を示して返答をもらうようにしているが、個別ケアの相談が中心で事業所に対する意見は少ない状況である。	事業所主催の行事を利用して意見を出しやすい工夫を行ったり、日頃からどう思っているかなどアンケートで本音を聞く等、利用者や家族が気兼ねなく意見や要望を出せる機会を設け、事業所の運営に活かすことができるような取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回管理者会議、業務カンファレンス、ケアカンファレンスを開催して職員が意見・要望を言えるようにしている。日々の勤務時を含め常に職員の意見提案を聞き反映させる努力をしている。	
			(外部評価) 毎月のケアカンファレンスで意見等を聞いているが、急ぎの時は話し合いを行う都度意見を聞いている。管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りを努め職員から出された意見をできる限り取り入れるよう配慮しており、職員のモチベーションアップに繋がっている。また、内部研修で職員2人1組のペアになり資料を作成したり、講師を務め職員と意見交換をするなどの取組みは、職員間の連携も強固になり業務にも生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力、状況を把握しているように思われるが、更なる職場環境条件の整備に努力が必要と思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では、毎月勉強会を実施している。年2回社内研修があり職員の参加を促している。社外研修へ参加する場合は参加費用の負担を行っているものもある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者会議にて他事業所との意見会議を行っている。また、行事にて交流も図っている。見学等の受け入れを行ったり、研修に参加する事で同業者との交流、情報交換する機会を作っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の事前調査で本人の希望不安を聞くと共にその方の過去、現在を理解して不安なく過ごせるよう信頼関係を築く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査及び施設見学時で困っている事、不安な事、希望等を聞く機会を作り信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族との話し合いの中で、その時必要としている支援を見極めようと努力している。支援が困難な場合は再度、本人家族と話し合いながらサービス利用も含め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の力に応じた作業を一緒に行い、生活に役割を持って頂けるよう支援している。一緒に作業する中で共に暮らしを支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方が、以前から利用者の方が得意としている事を行えるようにして頂いている。家族の方にもできるだけ協力して頂き、共に本人を支えていける関係を築くよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 十分とは言えないが、家族の方、友人の方から手紙を頂くことがあれば返信のお手伝いをしたり電話の取り次ぎを行っている。また地域の店自宅等、馴染みの場所に出かけられるよう支援に努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族より馴染みの人や場所を聞き取っているほか、近所の人や同級生の面会時はゆっくりできるように配慮し、利用者との日頃の会話の中で聞き取り馴染みの関係を把握している。また、駅前に自宅がある利用者の汽車に乗って家に帰りたいという希望を叶えるなど、要望に沿う支援ができています。美容師をしている娘の店で散髪が続けられたり、訪問美容師と馴染みになり関係が継続するなど、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の関係を把握し、部屋で閉じこもりや孤立等なく良好な関係が築けるよう声掛け、環境(席替え)等に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 機会があれば、できるだけフォローをする体制でいるが現在は継続的な関わりは出来ていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々、利用者の思いを把握に努めており会話などの記録に共有している。困難な場合は、家族、本人の意向に沿えるようケアカンファレンス等で話し合い努力している。 (外部評価) 日々の動作や会話の中から聞き取るなど、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。自分の思いを伝えるに難しい利用者は表情を見て本人の気持ちになって考えるようにしているほか、家族から聞き取り本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査、家族からの情報、日々の生活の中の会話などから把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録や業務日誌、申し送りノート、医療連携往診時等職員ひとりの観察ではなく他の情報も共有し把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月一回のケアカンファレンスで本人・家族の意向・要望を参考に職員で話し合い介護計画を作成し、同意のもと実施している。また、同会議にて実施状況、問題等についても話し合っている。	
			(外部評価) 担当職員は、利用者の思いや意向を把握し介護計画に取り入れている。利用者のニーズをまとめてケアカンファレンスで話し合い作成している。3か月毎にモニタリングを行い、家族には電話で意向を確認するなどし計画の見直しを行っている。介護計画は家族へ郵送したり面会時を利用し家族に説明し確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 心身状態の報告や介護記録に日々の状況を記入して、職員間で共有しながら介護の実践見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 話し合いのもと要望等があれば前向きに検討している。療養マッサージの受け入れやお墓参り等のサービスを行っている。また、入居者に変化等があれば神南診療所に連絡報告をし指示を受けている。そして、週一回訪問での医療連携看護師による体調管理を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源は把握しているが、身体的な事を考えると地域資源活用はまだまだ不十分で発揮できていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 施設の係りつけ医往診が月2回以上ある。常に主治医、医療連携看 護師に連絡を取り適切な医療が受けられるようにしている。また本 人、家族の希望があれば、他の医療機関専門医や専門医も受診でき るようにしている。 (外部評価) かかりつけ医については、入居時に利用者や家族と話し合っており 母体病院をかかりつけ医としている利用者が多い。かかりつけ医の 往診は定期的で健康管理がきちんとできており、体調不良時はその 都度診てもらえることができる。週1回の看護師の訪問や歯科医の往 診もあるなど、適切な医療を受けることができ安心である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院への状態報告や医療連携看護師に随時報告や相談を行ってい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 体調の変化や緊急時には相談や情報交換にて病院関係者との関係作 りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明は行っている。また重度化や終末期については本人や 家族の意思を尊重し、主治医・医療機関看護師と話し合い、早い段 階から事業所での可能な対応について十分説明し方針を共有してい る。職員にはカンファレンス等で意識統一を図っている。 (外部評価) ターミナルケアを実践しており、入居時に重度化及び看取りに関す る指針にそって、事業所でできることできないことを利用者や家族 に説明し確認している。また、身体状況に応じて医師、看護師等と 話し合い、状況に応じて夜間の職員配置を増やすなどの対応をして いる。職員は年間定期研修のテーマに看取り等を取り上げ勉強会を 実施するなど、穏やかに最期が迎えられよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急の講習を受けたり、シミュレーションを実際に行ったり、緊急時に素早く対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年2回行い全職員が対応できるようにしている。近隣住民にも参加を呼び掛けている。 (外部評価) 年に2回、火災を想定して消防署の立会いの下、避難訓練を実施するほか、年に1回の救命救急講習を実施している。避難後の人数確認、利用者への声かけ、避難経路や避難方法などアドバイスももらっている。事業所が耐震構造になっているため、地域の避難場所としての受入れが可能であることを運営推進会議で説明している。また、事業所内のタンスを固定したり、水や粥、かんぱんなどの備蓄品を配備するなど災害時に備えている。	職員全員で消防署のアドバイス内容を確認し見直しを行うとともに、緊急連絡網の実践で情報伝達状況を確認し職員の防災意識を高め緊急時に備えてほしい。地域住民や家族に避難訓練への参加を呼びかけ、災害時に協力が得られるような体制作りを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重している。状況に応じて個人に対応した言葉や対応に努めている。 (外部評価) 排泄介助やおむつ交換時は言葉遣いに気を付け、利用者が羞恥心を感じないように配慮した対応を心がけており、排泄に関する報告は職員同士にしか解らない表現にしている。大きな声で名前を呼ばないように留意し、方言を大切にしながらも尊敬の念を忘れないような声かけに配慮し、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が希望しやすいようコミュニケーションを取りながら声掛けや雰囲気作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員に余裕がない時などの、職員側の都合が優先する場合もあるが、入居者の安全を考慮したものであり、一人ひとりのペースに合わせてできるだけ希望に沿うよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容を利用してカット、毛染めやパーマ等は希望に沿って行って頂いている。入浴後の衣服は、なるべく本人に選んでもらっている。選べない人はその人らしく職員が考えている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その人に合わせた食事の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等一人ひとりに出来る事や好みで協力して頂いている。	
			(外部評価) 献立は事業所の担当者が持ち回りで立て、それを基に利用者の好みや畑で採れた野菜をアレンジするなど事業所独自のメニューにしており、食材は業者に毎日配達を依頼している。また、季節に応じて寿司や刺身、うなぎなどの特別メニューが提供され、誕生日はケーキを作るなど利用者の楽しみになっている。食事形態はミキサー食や刻み食など利用者の状況により対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量のチェック、身体の状態に応じて不足部分を促したり、食事の形態を変える工夫をしている。また、家族からのゼリー等の提供、トロミの使用等で工夫しながら確保している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っている。声かけで促し必要な人には準備や介助を行っている。週一回義歯洗浄を行っている。口腔内の異変がある場合は、家族との相談で歯科受診、往診を検討し実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めており、その人に合わせたトイレ誘導声かけにて排泄の失敗をなくす努力をしている。また、座位の取れる方は介助でトイレに座って頂いている。</p> <p>(外部評価) トイレは跳ね上げ式手すりを設置し、利用者の身体状況に合わせて安全に使用することができる。歯磨きや手洗い時に利用者の様子を見て声をかけるなど工夫しトイレ誘導している。また、失禁の多い利用者に対してトイレ介助を増やすことで失禁回数やパット使用量が減っており、現在も維持することができている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食事量・水分量チェックにて一日の食事・水分量に気をつけている。また、排泄チェック表から個人のパターンを把握し便秘予防に取り組んでいる。医療連携看護師・主治医と相談しながら服薬の検討もしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 本人の希望を尊重し、個々に応じた入浴を支援している。</p> <p>(外部評価) 浴室はユニットバスでシャワーキャリーやシャワーチェアを設置している。入浴は週2回を基本としているが、体調不良などの場合もあるため常に臨機応変に対応できるようにしている。個浴では対応できない重度の利用者は、リクライニング車いすにナイロンを敷きシャワー浴を行うなど工夫をするほか、手浴や足浴、清拭を行い入浴の感覚を味わってもらっている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 本人の意思で休んで頂いている。一人で移動できない方、体調不良の方は介助にて休んで頂く。夜間眠れるよう昼間の生活を工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋を個々のファイルに綴じて用法用量を理解している。服薬支援と症状の変化確認には努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 皆で笑ったり喜んだりしてもらえるようにその人にあった家事やレクリエーションを提供し職員一緒に日々を過ごせるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に一度外出ドライブ買い物等に行き日常では中庭のデッキの散歩野菜の手入れ希望と状況に応じ外出できるよう希望している。家族にも外出の相談依頼を行い協力してもらい外出支援をしている。	
			(外部評価) 天候の良い時は近くの神社まで散歩したり、ベランダで歌を歌ったり体操をするなど外気浴を楽しんでいる。地域の行事に参加したり近くのスーパーや道の駅に買い物に出かけている。また外食したり、菖蒲などを見物するために外出し気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には事業所が管理している。しかし、家族の了解にて自分で管理されている方もおられる。買い物行事では、支払いをできるだけ入居者にして頂けるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、電話を掛けたり手紙のやり取りができるようにしている。また、家族から電話をして頂き、電話に出て頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんがゆったり清潔に過ごせるよう環境整備を行っている。 花や掲示物にも工夫しレクリーションで作った作品、利用者の写真を飾り楽しめるようにしている。	
			(外部評価) リビングは広くて明るくコーナーにある畳スペースは家庭的な雰囲気になっている。職員は季節感がありくつろげる空間となるよう壁一面に飾りつけなどを行っている。昭和の音楽を流し、職員手作りの歌本を読む人など、その時代に戻ってゆったりとした雰囲気の中で穏やかに過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアでの席順や個室での利用者同士の行き来、一人ひとりの居場所作りが出来ている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた寝具・テレビ等持ち込みが出来ている。馴染みのある置物やお誕生日カード・写真等で安心して過ごして頂けるように工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、タンス、洗面台やエアコンを常備している。部屋からすぐにベランダに出ることができ、庭には野菜などを植えており野菜の世話は気分転換になっている。使い慣れたテーブルや椅子、毛布やタオルケットなどを持ち込んだり、仏壇、家族写真や孫の絵などを飾りつけて居心地よく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ベッドの位置や家具の位置を工夫し安全に自立した生活が送れている。	